学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2022年	
受賞タイトル	**最優秀賞**	
区　分	Ⅳ．都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	ナガイ　イチノシン	
制作者名	長井　一乃眞	
フリガナ	トウキョウデンキダイガク・ミライカガクブ・ケンチクガッカ	
大学・学部・学科	東京電機大学・未来科学部・建築学科(2022年3月卒業)	
フリガナ	ヒノ　マサシ	職名
推薦者名	日野　雅司	准教授
作品名	積乱の橋梁区	
概　要		

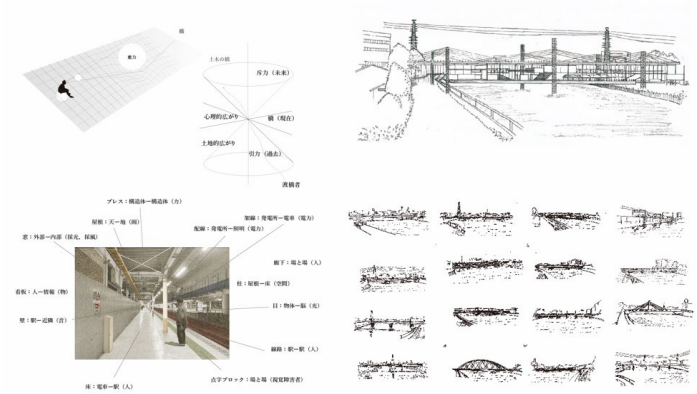
人は、自己の舞台を作る上げる事で、進化し、時代を生き抜いてきた。建築もその舞台の一つである。例えば、教会という建築が宗教という行為の舞台であったように。これは土木という行為の舞台提案、いわば橋会である。この橋は渡橋者という観客が自ら移動することによって場面転換を繰り返し、時に観客を演者へと誘うことで渡橋体験としての演劇が行われる。物事の枠組みの隙間に新たなる舞台を発芽させるというプロジェクトの一つとして、今回橋が特有の舞台性を持つと解釈し、その土木の橋の架橋による浮遊性を顕在化させると同時に都市の劇場性を顕在化させることを「渡橋」をテーマとして試みた。結果として、感情を表出させる建築としての橋のドラマツルギー への設計へと展開していく。これは都市への刑務所演劇であり、新しい舞台提案である。そしてインフラ更新期の日本においても重要な視点の一つである。

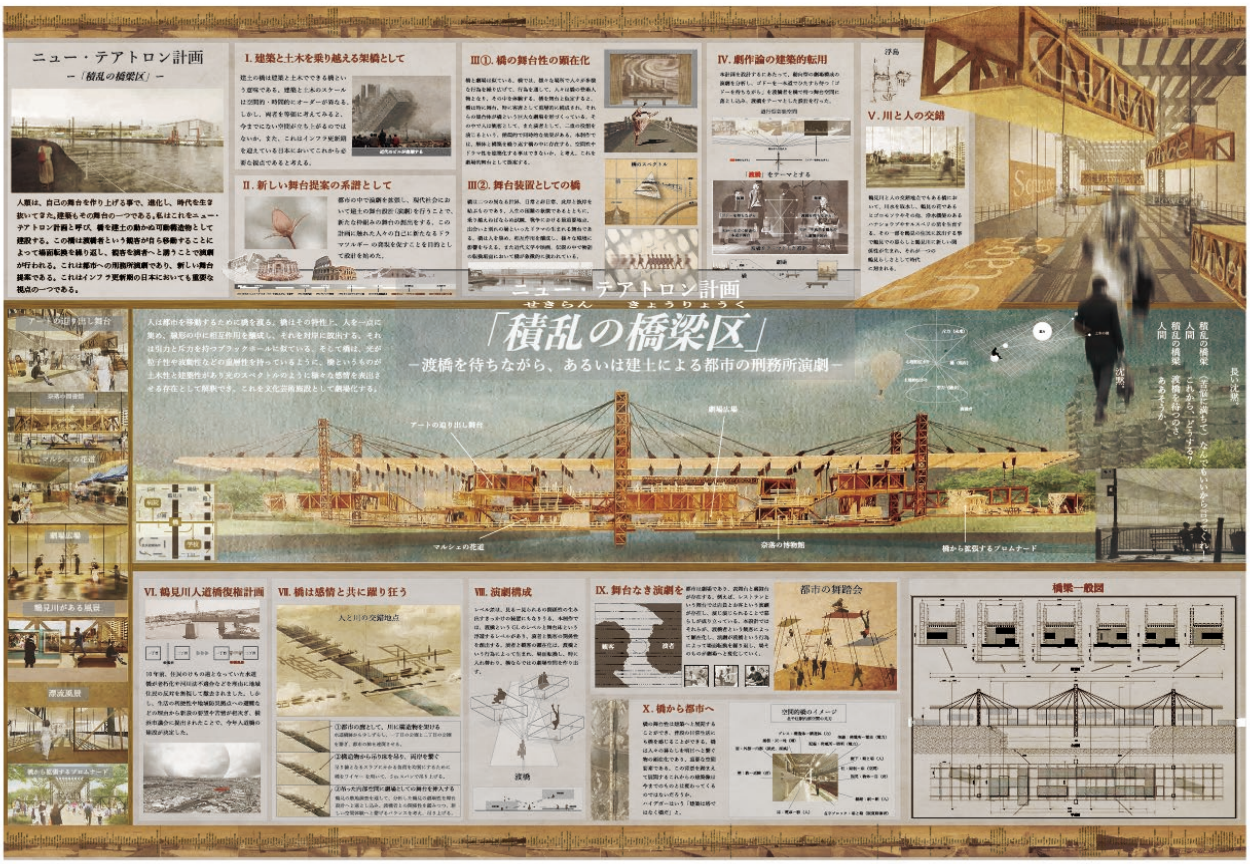
別 紙

製作者名	長 井　一 乃 眞
作品名	積 乱 の 橋 梁 区

【コンセプト解説】

人は、自己の舞台を作る上げる事で、進化し、時代を生き抜いてきた。建築もその舞台の一つである。例えば、教会という建築が宗教という行為の舞台であったように。これは土木という行為の舞台提案、いわば橋会である。この舞台設計は、人と人、人と物、人と情報とをつなぎ豊かな価値を創造する空間を媒体としたトランスメディアとなる可能性として、次なる新たな舞台への架け橋になると信じています。





鶴見の舞台性は橋で浮遊し、表出する。

舞台なき演劇が顕在化し、展開する。